

平成 30 年度 文部科学省 「特別支援教育に関する実践研究充実事業」

平成 30 年度 研究紀要

地域・人との関わりを通して学ぶ楽しさ
伝え合う喜びを育む授業づくり

2019 年 2 月

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属特別支援学校

ごあいさつ

本校では、平成 26 年度から 28 年度まで文部科学省のキャリア教育・就労支援等の充実事業の委託を受けて、「キャリア発達支援の視点による、小中高 12 年間を見通した学習活動の充実改善」というテーマで研究を行いました。また平成 29 年度には、3 年間の研究の総括として、「子どもの社会的・職業的自立を指向し、育ちと学びのプロセスを大切にする授業作り」というテーマで、一人一人の内面をキャリア発達の視点で丁寧に読み取りながら授業づくりや児童生徒の変容のプロセスを捉え直してきました。

今年度は、文部科学省の「特別支援教育に関する実践研究充実事業」（次期学習指導要領に向けた実践研究）を受託し、新たに「地域や人との関わりを通して、学ぶ楽しさ、伝え合う喜びを育む授業づくり」というテーマで研究を始めました。

本研究は 3 年間の計画で進める予定です。

これまでの研究の中で進めて参りました地域学校協働活動をさらに深化させ、これまでの本校の学習内容を社会の変化と卒業後を見据えて見直すと共に、児童生徒が能動的に学び、学んだことを生活に生かす力を育成する指導方法を探求します。

本年度は、これまでの研究の成果である、児童生徒の言動の「あらわれ」を基に内面の変容を推察するための授業アセスメントシートの活用に加え、新たに教科等特徴シートを作成し、児童生徒の変容をエビデンスとして授業や単元の評価・改善を試みました。

研究 1 年目ということもあり、その成果は甚だ不十分なものですが、教育研究会にご参加の皆様や本研究紀要をご高覧いただく皆様より忌憚のないご意見、ご指導を賜りながら、新学習指導要領が示す“よりよい教育を通じてよりよい社会を創る”という目標を実現する教育活動の一例として、今後の研究を通して提案して参りたいと存じます。

最後になりましたが、本校の研究にご指導・ご助言いただきました多くの皆様、児童生徒と共に学習活動に参加してくださいました地域の皆様に心よりお礼申し上げます。

校長 山本 仁